

# WISSEN

No.14

2019年度の学生ボランティア・学生情報通信員による  
広報誌「WISSEN」をお届けします。

2019年度は学生ボランティア 8名で活動しました。  
この広報誌「WISSEN」では学生ボランティアの活動を  
ご紹介します。



## 2019年度の活動

- ・新刊・学生選書・展示のためのPOP作成
- ・学生ボランティアミーティング
- ・ミニ展示
- ・クリスマスの飾り付け
- ・「図書館長と話をしよう！」に参加
- ・ビブリオバトル参戦！！

## 新刊・学生選書・展示のためのPOP作成

本のPOP作りは、小学生の図画工作をしているような、そんな楽しい気分ですることができました。  
普段しないことをやれて、良い体験になったと思います。  
(人文学部 1年次生)

学生ボランティアの仕事の一つとして新刊や学生選書など、各展示コーナーにある本の説明や推薦文を書いています。  
学生ボランティアが作成したPOPは、展示コーナーや新刊書コーナーに設置されます。

展示が終了した本のPOPは、新館2階円形コーナーに「POP大行進」と称して並べて置いてあります。



## 学生ボランティアミーティング

1年を通してどんな活動をしていくのか、他のボランティア学生と活発に話し合います。色々なアイデアが飛び交いとても楽しいです。ミーティングは初対面の人が多く、最初は緊張しますが、ミーティングや活動を通して学年を超えて親睦を深めていきます。



## ミニ展示

今年はボランティアの企画として、ミニ展示コーナーの企画を行いました。ボランティアがこうして自主的に企画して実行することが今まであまりなかったので、大変なことも多かったですが、ボランティア同士協力してやり遂げることができてとてもいい経験ができました。(栄養学部 3年次生)



## クリスマスの飾り付け

クリスマスの飾りは毎年大規模に行われますが、どのように飾るかを考えながら職員の方と飾るのはとても楽しいです。来館して下さった方々が足を止めて飾りを見てくださるのが、一番嬉しく思う時です。(人文学部 2年次生)



## 「図書館長と話をしよう！」に参加

年齢、学部問わず図書館の在り方について対等に語り合うことができたことが一番楽しかったです。

また、図書館長と実際にお話をし、自分たちの目線で望んでいることを伝える機会があり、その意見が実際に図書館運営に反映されることは普段、よく図書館を利用している身としてはとてもありがたいことだと思います。(人文学部 1年次生)



## ビブリオバトル参戦！！

2007年に京都大学で生まれた、知的書評合戦「ビブリオバトル」。発表者が自分のお勧め本を紹介し、一番読みたくなった本を参加者全員が投票し、「チャンプ本」を決定します。

有瀬図書館でも2011年より開催していますが、2019年度は学生ボランティア3人を含むバトラー達が熱戦を繰り広げました。2019年度はボランティアの井上美里さんの紹介した本がチャンプ本に選ばれました。





## -学生ボランティア おすすめの図書-

### 『本を守ろうとする猫の話』 夏川草介

有瀬図書館 本館4階閲覧室

913.6/NAT/H

今年度のビブリオバトルで紹介されており、気になったので読んでみました。人にとって本はどのようなものなのか、自分の考えが果たして必ず正しいものなのかなど、考えさせられることが多く、読んでいくにつれて自分の中にいろんな思考を持つことができました。主人公の成長していく様子や猫とのやり取りなども、読んでいて楽しかったです。



### 『塩狩峠』 三浦綾子

有瀬図書館 本館4階文庫・新書

B/み/8-1

明治時代に起きた鉄道事故をモデルにした作品。本作自体はフィクションであるが、臨場感や緊迫感がよく伝わってくる。ページ数も300頁ほどで読みやすいのも特徴。愛に満ちた一人の青年の生涯を描いた感動のストーリー。

### 『会話のできない中学生がつづる内なる心』 東田直樹

有瀬図書館 新館2階A

378/HIG/J

僕が中学生の頃に、同じクラスにも自閉症の子がいて、ずっと何かを訴えるように頭を抱えたり、唸ったりして、それは何故だろうとずっと疑問に思っていた問いの答えが、この本には書いてありました。自閉症の人との寄り添い方が分かる、または考えさせられる、そんな本でした。





『ブランコ乗りのサン＝テグジュペリ』 紅玉いづき  
有瀬図書館 本館4階閲覧室  
913.6/KOG/B

主人公が怪我をしてしまった双子の姉に変わって少女サーカスでブランコ乗りの演目をこなし、そのサーカスのメンバーごとの過去やサーカスに抱く感情、演目をこなすことに対する誇りを文章から感じることができます。最後に主人公がどう動くのか、怪我をした姉はどうなってしまうのか。どの部分をとっても夢中になれる1冊です。

『いなくなれ、群青』 河野裕  
※本学には所蔵されていない本です。

人は大人になる過程において、子供の頃に持っていたものを失ってしまう。それは時として必要なことかもしれないが、ふとした拍子に寂しさを覚える。子供から大人へと成長する過程にある十代の少年少女を中心に、成長することへの葛藤を描いた作品。



読んでみてね！

## - 1年間の活動を振り返って -

今まで図書館ボランティアとして活動してきた、今年度は特に活動した1年間でした。ミニ展示の内容や展示方法など、自分たちで考えて実行するのはとても大変ですが、その分やりがいがあり、実際に形になったときはとても嬉しかったです。図書館のスタッフの方もたくさん協力してくださり、活動していてとても楽しかったです。本や図書館行事に興味がある人にはボランティアにぜひ参加してほしいなと思います。  
(栄養学部・3年次生)

---

昔から図書館という場所が好きで、大学に進学してからは特に用がなくても暇があれば通っているのですが、自分がよく利用する場所の運営に自分自身の意見や活動の一部が反映されることはとてもやりがいを感じましたし、私と同じように図書館が好きな人たちと年齢・学部問わず活動することは、とても楽しかったです。特に、お互いに図書館という場所が好きなので、図書館や本などといった共通の話題を持っていることが多く、盛り上がりました。  
(人文学部・1年次生)

---

一度で良いから本に囲まれて活動してみたいという理由でこのボランティアに参加しました。ミニ展示のポスターを製作したりなど私にとって初めての経験もありました。どの活動も私にとって良い思い出・経験になったと思います。来年度は本年度よりも充実したものとなるようにしたいです。  
(人文学部・1年次生)

---

幾つかのイベントに参加しましたが、関わった人皆明るく温かくて、ほんの軽い気持ちでボランティアを始めましたが、参加して良かったと思えました。クリスマスの飾りつけや展示など、裏方の仕事は新鮮で楽しかったので、また参加したいです。  
(人文学部・1年次生)

---

2年連続ボランティアを行わせていただきましたが、やはり本に関わるのはとても楽しく、自分自身も最も幸せを感じます。もうすぐ就職活動に集中しなければならない時期がやってきますが、それまでは沢山ボランティアに参加したいと思っています。  
(人文学部・2年次生)

# 編集後記

2019年度も多くの学生ボランティアの皆さんに活動していただいたので、図書館を盛り上げることができました。

スタッフとしても、とても充実した1年となりました。

図書館での活動を通して、皆さんに何か得られるものがあれば嬉しく思います。

学生ボランティアのみなさん、1年間お疲れ様でした。

2020年度もぜひ学生ボランティア・学生情報通信員にご参加ください。

(スタッフより)

学生ボランティア・学生情報通信員は

随時募集中です。

興味がある方はお気軽にスタッフまで  
お声かけ下さい♪



発行日	2020年 6月 5日
編集	2019年度 学生ボランティア
発行	神戸学院大学 有瀬図書館
印刷	神戸学院大学 有瀬図書館